

には、チェック体制の不備などさまざまな問題があるが、今後の対策は。「農地・空き地など市が無料で整地します。」という行政を批判する文書が配布されたが、本市の対応は。また、他地区と異なり地権者の負担金がなく不公平との声をどう受け止めるのか。完成後、数年で耕作放棄の状態になった理由は。

答 事業執行をチェックする

「区画整理(ほ場)事業調整協議会」を設置し、適正な事業推進に努めていく。芦田町でも事業費の全額を受益者負担で施行している。配布文書の「無料で」という内容は、根拠のない憶測と受け止めている。関係地権者に圃場整備事業の趣旨・目的が十分に説明できていなかったことが、耕作放棄地につながったものと思う。

◇関連質問

- ・芦田町の圃場整備について (水曜会)
- ・芦田町圃場整備事業での市職員役割について (日本共産党)

渇水対策とゲリラ豪雨・大雨対策 (市民連合)

問

地球温暖化は少雨現象にも拍車をかけている。降雨量の少ない本市では、三川ダム、八田原ダムだけでは不安であり、将来にわたって市民の水源確保は大きな課題である。今後の渇水対策・水源確保の方針は。また、手城川・羽原川流域、アンダーパスなどのゲリラ豪雨・大雨被害への対策は。

答

大渇水時に活用した中津原浄水場付近の井戸の復元を図るなど、両ダムの延命化にも取り組むが、さらなる水源確保は困難。集中豪雨などの被害軽減については、危険個所の早期パトロールなど迅速に対応していく。手城川流域の治水対策と羽原川流域の高潮対策は県と連携して、またアンダーパスは市として取り組んでいる。

渇水対策について (公明党)

問

芦田川流域における5月の記録的な少雨の影響で、三

川ダムおよび八田原ダムの貯水量は減少し続け、深刻な状況である。そのため、工業用水30%、農業用水30%に取水制限を強化されたが、今後さらなる取水制限を強化するのか、今後の見通しと対応は。



貯水位が低下した三川ダム

答

6月16日に水道局へ渇水対策本部を設置し、工業用水利用者が多量に水道水を使用している事業者には節水の要請をした。引き続き、厳しい状況が続くと予測されるが、関係者や関係機関と連携を図りながら、これまでの大渇水時に活用した中津原浄水場付近の井戸の復元を図るなど、できる限りの渇水対策を講じ、市民生活への影響を最小限にとどめる。

◇関連質問

- ・渇水対策について (水曜会)

お知らせ

次の定例会は、9月2日(水)から18日(金)で開催される予定です。
代表質疑および一般質問などは、9月8日(火)から11日(金)までを予定しています。
なお、企業会計決算特別委員会が、9月24日(木)から28日(月)で開かれる予定です。
詳しい日程は、ホームページでご覧いただくか、議会事務局へお問い合わせください。(☎084-928-1136)

虚礼廃止にご理解を!!

政治家は、次のようなことが、公職選挙法によって禁止されています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

- 議員や後援会が、
寄附をしたり**有料のあいさつ広告**を出すこと
儀礼的な**祝儀、香典、供花**を出すこと
お中元や**お歳暮**を贈ること
- 議員が、**暑中見舞い**や**年賀状**などのあいさつ状を出すこと (自筆の答礼は除く)
- 市民や団体が議員に**寄附**などを求めること